

# 韓国語絵本の日本語版における傾向

金 銀 英

## Current trends in Japanese editions of Korean picture books

by  
KIM Eunyoung

### 要旨

本稿は日韓翻訳研究の一環として、韓国原作絵本の日本語版に見られる傾向を探ることを目標としている。近年の傾向を探るため、比較対象を翻訳版の初版が2018年に出版されたものから遡って選択した。8名の翻訳家による10作品から翻訳例を収集し分析を行った結果、次の四つの傾向が認められた。①翻訳全般の傾向は、概ね原作内容の伝達に不十分なく翻訳されていた。②紙面上の都合による字数制限に強く縛られていた。③日本語原作韓国語訳版に比べて固有名詞の変更が多く行われていた。④翻訳出版する原作選びにおいて、以前は異文化を紹介する内容のものが選ばれやすかったが、近年はストーリー性と表現のクオリティーに重きが置かれる傾向が見られた。

この分析は、現在手つかず状態である日韓絵本翻訳研究の基礎的研究であり、日韓翻訳研究及び絵本翻訳研究に発展させたい。

キーワード：外国の絵本、絵本翻訳、韓国語からの翻訳、絵本の出版、原作選定、翻訳作業に影響を与える要因

## 1 はじめに

翻訳研究において絵本は他のジャンルより独特な性質を有していることで知られている。フィクションとして同じジャンルに属する小説と比べても、絵本の翻訳は小説のそれとは異質なものである。その異質性は絵本そのものの特徴に起因するもので、まず、本を読む対象の複雑さが挙げられる。絵本は主に子どもを対象に書かれるが、そのメインターゲット以外に保護者や教育者といった別のターゲットも念頭に制作されている。子どもにとって絵本との出会い

は保護者や教育者による読み聞かせの場合が多く、外国の絵本も絵本を手に取り読み聞かせをする大人の存在を意識して翻訳する必要がある。また、絵本のテキストはオノマトペや言葉の繰り返しなど聴覚的な要素を意識して書かれる場合が多い。この音の楽しさを活かせる翻訳にしなければならないことも絵本翻訳の留意点である。次に、絵本はテキストと絵の二つの情報源を有することが他のジャンルの翻訳と大きく異なる点である。外国の風習や文化などを読者である子どもに伝わるように原作では絵で表現することで文字での説明を省いた部分をテキストで補って翻訳する必要が生じる場合もある。

絵本は以上のような理由で他のジャンルと異なる翻訳方法が求められる。しかし、翻訳研究全般において絵本翻訳は近年になって研究が始まったばかりである。日本では毎年750冊前後の絵本が出版されており、日本語の絵本が約8割、外国語原作の翻訳絵本は約2割である<sup>注1)</sup>。2割あまりの外国語原作絵本はそのほとんどがアメリカ、イギリス、フランス、ドイツの作品で韓国を含む東アジア圏の原作絵本がその後が続く<sup>注2)</sup>。韓国語原作絵本の日本語訳版は数としては少ないが毎年一定数出版され、出版界では新たな原作発掘の場として韓国を注目している<sup>注3)</sup>。翻訳絵本の長い歴史からするとまだ始まったばかりと言える韓国語原作絵本の日本語訳版は、これからの拡大の兆しが見込めるだけに、その翻訳研究が必要と思われる。

本稿は翻訳研究の一環として絵本翻訳の傾向を考察することを目的としており、拙稿金(2019)の対になるものである<sup>注4)</sup>。金(2019)では日本語原作絵本の韓国語訳版における翻訳傾向を探った。翻訳は概ね原作の内容を不十分なく伝える自然な韓国語になっていたが、中には誤訳と言うべきものもあり、翻訳者の解釈で作品の印象が変わるものがあった。またテキストだけでなく絵というもう一つの伝達手段を有することや動植物や無生物が擬人化しやすいことなど、絵本ならではの特徴が翻訳に与える影響も確認できた。本稿では韓国語原作絵本の日本語訳版を対象に前稿と同様の比較を行い、その傾向を探ることを目標とする。翻訳の傾向のみならず日本語版出版に至った原作からその選定傾向を探り、外国絵本に期待される役割についても分析する。

## 2 日本出版市場における韓国絵本

まず韓国語絵本の日本語版が日本の出版市場においてどのような位置付けであるのか、現状を把握する必要がある。

今回の調査は金(2019)に準じて、現在書店で流通し、かつ韓国語原作と日本語訳版が入手可能な作品から調査対象を選定した。商品として書店に並んでいることは翻訳の質が保証されていると見なし、現在の翻訳及び出版傾向を調べるために2018年に日本語版初版が出版された作品から年を遡って10作品を選んだ。しかし、その選定において予想外のことが起こった。

前稿の選定時は2018年の1年間で10冊を揃えることが出来た。初版出版だけを対象にしても2018年の1年間で153冊の日本語原作絵本が翻訳され韓国の書店に並び、それらは複数の翻訳者による翻訳だったため2018年だけで調査対象10作品を選ぶことができた。しかし、今回の調査のため韓国原作絵本を探したところ、2009年まで遡らなければ10冊を揃えることができなかった。近年日本で出版された韓国語原作絵本の日本語訳版の出版状況をジュンク堂および紀伊国屋、絵本ナビのウェブページから調べた結果である(表1)<sup>注5)</sup>。

表1 日本における韓国語原作絵本の出版状況  
(2019年1月現在、単位/冊)

	2014	2015	2016	2017	2018
1月					
2月					
3月				1	
4月					
5月	2				1
6月			1	1	
7月					1
8月			1		
9月					
10月	1				
11月				1	
12月					

日本では韓国原作絵本の日本語版が10冊出するのに5年かかっている。前稿の調査によると韓国では2014年から2018年の5年間、日本語原作絵本の韓国語版は毎月平均10冊のペースで出版されている<sup>注6)</sup>。前述の通り、韓国は日本の絵本翻訳市場では未開拓の地でありこれからの成長が見込まれているとされているが、現状は表1の通りで、韓国の日本語原作絵本の翻訳状況と比べて大きな隔りがある。

表1のような結果の原因として、韓国創作絵本の歴史が考えられる。韓国の児童文学は、1980年代まで外国の作品を翻訳した「世界名作全集」や「学習用絵本」がほとんどだったが、1990年代に入り市民運動「オリニ図書研究会(어린이도서연구회)」の発足、「チョバン書店(초방서점)」のオープンで、創作作品の発表の場が整ったとされている。朴(2009)は、西洋画中心だった絵本の絵が民画や仏教画のような伝統的な手法を取り入れるなど多様化してくるのも1990年代に見られる“韓国創作絵本の進化”としている<sup>注7)</sup>。

この90年代に出版された韓国創作絵本が日本の編集者の目が留まり日本に紹介されたのが韓国語原作絵本の日本語訳版の始まりである。『山になった巨人—白頭山ものがたり』(松井直

訳、福音館書店、1990 / 原作：『백두산 이야기』 류재수著、보림出版社、1988) が最も早い時期に翻訳出版された作品で、この時期日本語版出版に携わった編集者が挙げる韓国絵本の魅力は韓国の伝統や文化の紹介、美しい絵による韓国の衣食住紹介だとしている<sup>注8)</sup>。また、この時期の韓国語原作絵本の日本語版に触れた元小学校の教員は思想やテーマの哲学的深さが韓国絵本の魅力であるとしている<sup>注9)</sup>。

### 3 韓国原作絵本の翻訳

外国絵本の翻訳に関する研究はそのほとんどが英語圏作品の翻訳であり、韓国語原作絵本を対象にした研究は管見ではない。このことは表1からも窺えるように日本に紹介される韓国絵本が少ない現状によるものと思われるが、前述のように韓国絵本の魅力として取り上げられる異文化や思想・哲学は翻訳に大変な力量が求められる。ベイカー (2013) は児童文学、とりわけ絵本翻訳の留意点として次の4つを挙げている<sup>注10)</sup>。

- A) 絵とテキストの問題 — 視覚イメージとテキストの関係性 —
- B) 異文化の解釈 — 原作の底辺を支える文化的な側面やイデオロギーの取扱い —
- C) オノマトペや繰り返し・言葉遊び — 原作の聴覚的側面と翻訳 —
- D) 教育への配慮 — 発達段階と子どもの教育 —

ベイカーはB) 異文化の解釈について、原作への翻訳者の介入が多く関わる部分だと指摘している。残りの三つも絵本翻訳には大いに注意を要する事項であり、ベイカーは上記の4点に留意し、情緒的内容や創造性、単純な表現、言語の遊戯的要素などがうまく調和すると幼児向けの作品としても翻訳としても成功するとしている。

本稿では、ベイカー4つの観点を韓国語絵本の日本語翻訳における傾向と照らし合わせながら、さらにそれには当てはまらない注目すべき翻訳傾向を明らかにする。ベイカーの観点を参考にするのは、韓国語と日本語に捕らわれない翻訳の普遍的な問題提起から分析に取り掛かることで日韓翻訳における特殊性が浮き彫りになると判断したためである。

### 4 調査対象と用例の収集

本稿の調査で比較対象にした韓国創作絵本とその日本語版は次の通りである (表2)。

表2 調査対象一覧

(日本語版初版の出版年度順)

	日本語訳版題名	初版 出版	翻訳者	内容
	原作題名		作者	
1	어처구니 이야기	2006	박연철	宮殿の瓦屋根に置く守り神「オチョグニ」たちがなぜ屋根にいるのかを昔話風に説く。
	いたずら五にんぐみ オチョグニ	2009	星 あキラ	
2	엄마랑 뽀뽀	2008	김동수	寝る前に読む絵本で様々な動物の母子が登場しその触れ合いを描く。
	あかちゃんとおちゅ	2009	編集部訳	
3	우리 몸속에 뭐가 들어 있다고?	2011	김영명 글 김유대 그림	口に入れた様々な物によって体の中がどう変わるか子どもたちが空想する。
	からだのなかには なにがある?	2012	かみや にじ	
4	한이네 동네 시장 이야기	2011	강전희	お母さんと市場に買い物に出かけた男の子のお話。
	ハンヒの市場めぐり	2013	おおたけ きよみ	
5	비 오는 날에	2011	최성욱 글 김효은 그림	大雨の日一人留守番をする少女の家に様々な生き物たちが雨宿りに来る。
	あめのひに	2014	星 あキラ	
6	그림의 하얀 캔버스	2011	이현주	雨の日に少女がクレパスで絵を描きながら、森で様々な動物と助け合う空想の冒険談。
	クリムの しろいキャンパス	2014	かみや にじ	
7	강냉이	2015	권정생 시 김환영 그림	戦乱を逃れ避難の旅に出る少年の故郷を懐かしむ心情を描く。
	とうきび	2016	おおたけ きよみ	
8	장수탕 선녀님	2012	백화나	銭湯で偶然出会った天女のお婆さんと少女の触れ合いを描く。
	天女銭湯	2016	長谷川義史	
9	플라스틱 섬	2014	이명애	海に捨てられたゴミでできた島に生息する鳥の語り。
	いろのかけらのしま	2017	生田美保	
10	수박 수영장	2015	안녕달	村の子どもと大人がスイカのプールで一夏を楽しむ様子を描く。
	すいかのプール	2018	斎藤 真理子	

前稿に準じて、翻訳者個人の翻訳習性にならないよう異なる翻訳者の日本語版をそろえようとしたが、韓国語は日本の翻訳絵本市場ではまだマイナー言語であるためか特定の翻訳者による作品が多くどうしても訳者が重複した。そのため8名の翻訳者による10作品をとった。

なお、『いたずら五にんぐみ オチョグニ』のように長い題名を本文中に記す時は以降、表の下線部のみで示す。

日本語訳の翻訳法を探るため表2の作品から用例を収集した。用例収集のため、前稿同様の比較手順を取った。

- ① 原作の通読 — 原作の内容の把握と翻訳文を予想
- ② 原作と日本語版の比較対照 — 原文と日本語訳文を左右に置き、1対1対応
- ③ 日本語版の通読 — 日本語そのものの違和感の有無、原作の内容と1対1対応

比較の例を示す。なお、それぞれの括弧と記号が示すのは次の通りである。

【 】：日本語訳版の作品名と該当ページ及び行、原)：韓国語原作、訳)：日本語訳、〔 〕：筆者による日本語訳、／：改行、【 】：韓国語の音をカタカナ表記

<例1> 『『しま』、1-1』

原) 나는 바다 한가운데 떠 있는 작은 섬에 살고 있어요. [私は海の真ん中に浮かぶ小さ な島に住んでいます] /	訳) ぼくは、うみの まんなかに うかぶ ちいさな しまに すんでいます。 /
--	--

今回収集できた用例は、ほとんどが<例1>のように原作の内容伝達に不十分なく翻訳されていた。この結果は、韓国語と日本語の語学上の類似や、隣国であり生活様式の多くが相似していることから予測できることだった。また、他ジャンルに比べ一冊当たりの文字数が少なく簡潔なテキストで構成される絵本の特徴と、出版されていることから一定の翻訳品質は確保できると予測したが、予測通りの結果であった。

しかし、語学上の類似点が多いとされる日韓両言語間でも常に<例1>のように翻訳されるのではない。

<例2> 『『すいかのプール』、4-1』

原) 수박 수영장을 <u>개장할</u> 때가 왔습니다. (す 이かのプールを <u>開場</u> する時が来ました) /	訳) すいかのプールの <u>プール</u> びらきです。 /
--	---------------------------------

韓国語は「개장할 때가 왔습니다[開場する時が来ました]」と書かれているが、日本語には「～開き」という表現があり、<例2>は原文の表現より適した語彙に言い換えることで自然な日本語になった例である。言い換えによって自然な日本語になった例は他にもある。

<例3> 『『市場』、12-1』

原) 멸치가 <u>떨이요~떠리미</u> [煮干しの <u>売れ残</u> <u>りの安売り</u> だよ~、 <u>売れ残りの安売り</u> ~] /	訳) にぼしは <u>どうかね</u> /
--	-----------------------

「떨이【トリ】」と「どうかね」は同じ意味ではないが市場の掛け声と言う点では「どうかね」の方が日本らしい臨場感を出せる。「떨이【トリ】」とは、商売において売り切るために値下げした売れ残りを指す言葉で、市場などにおける「떨이요~떠리미【トリヨ~トリミ】」は値下

げ後の“お得感”を強調する掛け声である。「どうかね」では“お得感”は省略されるがこのテキストと対になる絵はリアカーで煮干しを売るおじいさんがのんびりとほこりたきを持っている絵になっており、「どうかね」の方が絵にも適している。

では表2の10作品から収集した例から韓国絵本の日本語版の傾向を見てみる。

## 5 絵本翻訳の特殊性と韓国語絵本の日本語訳、そして出版事情

前述したベイカーが指摘した絵本翻訳の四つの留意点、A) 絵とテキストの問題、B) 異文化の解釈、C) オノマトペや繰り返し・言葉遊び、D) 教育への配慮に沿って比較を行う。

### 5・1 絵とテキストの問題

前稿でも指摘したが、絵本翻訳は字の配置、書体のイメージ、改行箇所もできる限り原作に近付けようとする傾向があり、今回の比較でも同様の傾向が見られた。絵は原作の絵と見開き上下左右の同一位置に配し、テキストに関しても原作にできるところまで同一場所に配置していた。

しかし、今回の調査ではテキストにおいて様々な工夫が見られた。韓国語を日本語に訳すと、日本語の音声学上の特徴から多くの場合文字数が増える傾向にある。さらに絵本は漢字を使えない制限があり、仮名表記にするとほとんどの場合原文の文字数より文字数が多くなる。そのうえ、絵本の翻訳は他ジャンルと異なり、文字が入ることができるスペースの制限もある。

#### <例4> 『天女銭湯』、19-1】

原) 우와, 이럴수가! 할머니는 냉탕에서 노는 법을 정말 많이 알고 계셨다.

[うわー、なんとということ! ばあちゃんのみずぶろでのあそびかたを ほんとうにたくさんしっていた]

訳) うわー、ばあちゃんは みずぶろあそび の プロ やった。

<例4>の逐語訳をひらがな表記に変えた場合、原文の30文字は45文字に増える(原文・訳文ともに句読点、感嘆符含む)。限られたスペースに原作の内容を不十分なく伝達するためには「이럴수가 [なんとということ]」を省略し、「정말 많이 알고 계셨다 [本当にたくさん知っていた]」を「プロやった」と置き換えるなどの工夫が必要になる。今回調査対象にした作品から<例4>のような工夫が多く見られた。日本語絵本の韓国語訳版では見られない工夫である。

紙面上の字数制限と関わるもう一つの翻訳傾向として固有名詞の変化が挙げられる。

金 (2019) で収集できた固有名詞はペンペン (『アイスのくに』)、けんくん、モモ (以上、『おしりびより』)、フク (『みずたまり』) があったが、この中から名前に変化が見られたのは『おしりびより』の「けんくん」が「은우【ウヌ】」に変わった例のみだった。前稿で調査対象とした絵本はトマトやピーマン、石鹸、布団などが擬人化して登場するものが多く、人が登場する場合も「わたし」が多かったため、固有名詞そのものが少なかった。今回調査した作品からは덕지 (『天女銭湯』)、한이、뜰이 (以上、『ハンヒの市場めぐり』)、크리미 (『クリムのしろいキャンバス』)、대당사부、손행자、저팔계、사화상、이구룡 (以上『いたずら五にんぐみ オチョグニ』) など名前の付いた登場人物が多数見られた。原作の名前がそのまま日本語訳版でも使われるのは「덕지【ドッチ】」が「ドッチ」になる例があり、原作とかけ離れた変化は『ハンヒの市場めぐり』の犬「뜰이【トリ】」が「モンシリ」に変わる例があった。뜰이は一音節目の子音が無声軟口蓋破裂音であるため、無声歯茎破裂音の「ト」とは異なるが、カタカナで記すると「トリ」にしかならず、犬を「トリ」と呼ぶのは子どもに混乱を招きかねないため、ペットの名前として韓国にありそうな「モンシリ」に変えたと思われる。

「뜰이【トリ】」から「モンシリ」への変化の仕方と異なる固有名詞の変化として目立つのは、原音に寄り添う形の変化である。『いたずら五にんぐみ オチョグニ』の登場人物はそれぞれ「대당사부【テダンサブ】」が「サム」に、「손행자【ソンヘンジャ、もしくはソネンジャ】」が「ソン」に、「저팔계【チョパルゲ】」が「チョ」に、「이구룡【イグリョン】」が「クリ」に変わっていた。それぞれ原作の名前の音をもとに短くしている。もう一人の登場人物「사화상【サファサン】」は「サゴ」に変わっており、韓国語音とかけ離れているように見えるが、「사화상【サファサン】」つまり沙和尚は沙悟浄の別名で、沙悟浄を「サゴ」と短くしたと思われる。

韓国語訳より日本語訳の方で固有名詞の変化が多く見られる原因として、その変化の仕方が短くなる傾向にあることから絵本の空間的制限が考えられる。原作の名前をすべてカタカナで表記すると原作より文字数が多くなり、訳文が入るべき位置に収まらない結果になる。絵本は文と絵で構成されており、訳文は該当の絵と連動しなければならない、文が入るべき空間は原作の文と絵の配置で決まっている。小説などの他ジャンルのように文字数を意識せず翻訳者の意のままに翻訳することはできず、固有名詞に変化を加えたと思われる。

## 5・2 異文化の解釈

金 (2019) で調査対象にした作品は背景が現代や架空の世界のものが多く伝統的文化や習慣が作品に取り上げられる場面がなかった。しかし古市・西崎 (2009) でも指摘している通り、外国の絵本の翻訳においてその国の伝統的な要素を翻訳するためには工夫が必要である<sup>注11)</sup>。

今回の調査では『いたずら五にんぐみ オチョグニ』のように伝統文化を取り上げた作品や『と



うきび』のように韓国の歴史を題材にした作品があった。『とうきび』は時代設定が朝鮮戦争開始頃ではあるが、そのことは「あとがき」で明確にしているだけで絵本の本文だけでは、田舎で穏やかにトウモロコシを育てる少年が、ある日突然何が起きているのかも分からないまま住み慣れた地を離れていく内容になっている。絵も避難を境に明るくのどかな風景から暗く重々しいタッチに変わるだけで、時代が特定できる描写はない。そのためか、日本の読者のために説明を付け加えたり、訳者注を付けたりと工夫はなかった。

『いたずら五にんぐみ オチョグニ』は時代未詳の空想の話である。いたずら好きなオチョグニ五人組はその罰として天帝から鬼退治を命じられるが、いたずら心が鬼退治の時も生じてしまい失敗に終わる。怒られるのを恐れ屋根に逃げ込んだ五人組はそれからずっと屋根で悪霊から宮殿を守る守り神になる。ストーリーそのものが昔話風の架空の話であり、訳者注がなくても読者である子どもが理解できる内容である。ただ慣れない固有名詞が多く出るため巻末で登場人物の説明を付けている。この構成は韓国語原作に従ったもので、韓国の子どもたちも追加説明が欲しい場合は巻末で確認できるようになっている。

現代を背景に主人公の空想の世界を描いた作品からも韓国の伝統的な要素が見られる作品があった。

<例5> 『『あめのひに』、8-2~3』

原) 빗물이 이번엔 우리 마을 입구에 서 있는  
〔雨水が今度は村の入り口に立っている〕/  
아빠 장승과 엄마 장승의 발을 적시기 시작했어.  
〔父さんチャンスンと母さんチャンスンの足  
元を濡らし始めた〕/

訳) いえの ちかくの おじぞうさまの あ  
しもとまで/  
あまみずが あがってきたとき/

「장승【チャンスン】」は集落や村の入り口に立てる木でできた守り神のことである。日本では「長生標」と紹介される朝鮮半島の神像で、男女一對のものが多く里程標の機能も果たす。しかし日本にはないため同じ守り神としての役割をはたす「地藏」に変えた例である。「장승【チャンスン】」は村の入り口に立つが地藏は民家の近くにあることから、その場所も「마을 입구〔村の入り口〕」から「いえの ちかく」に変わった。小説なら脚注を付けて「장승【チャンスン】」の説明を付け加えることが予想できるが、同紙面上説明を付けるスペースがなく、ストーリーの展開上「장승【チャンスン】」でなければならない不可欠性もない。さらにこの文と対になる絵にも「장승【チャンスン】」は描かれていないため「장승【チャンスン】」にこだわらず「おじぞう」に置き換えたと思われる。このように文化的な要素を全て訳すのではなく、読者に受け入れやすいようターゲット言語の文化に合わせて変える例が見られた。

### 5・3 オノマトペや繰り返し・言葉遊び及び教育への配慮

今回調査にした韓国絵本はオノマトペの使用が日本原作絵本に比べて少なかった。調査対象の多くが聴覚的遊戯よりストーリー性に重きを置く作品だったことが原因と思われる。本調査ではストーリー展開の繰り返しが確認できた。

『비 오는 날에』(『あめのひに』)では各ページの最初の文が“비가 [雨が]”で始まり、最後の文は各種の生き物が家の中に入ってくる構成になっており、この展開の繰り返しが日本語訳版でも守っている。

調査対象の中、唯一の未満児向けの絵本『엄마랑 ㄹㄹ』(『あかちゃんちゅ』)でも“○○우리 아가, 엄마랑 ㄹㄹ [○○赤ちゃん、ママとちゅ]”と構成の繰り返しが見られる。しかし、その日本語訳は“○○あかちゃんちゅ”だけになっており、「엄마랑 [ママと]」が省略される変化が見られた。そのためか、本の題名も『엄마랑 ㄹㄹ [ママとちゅ]』から『あかちゃんちゅ』に代わっている。

原作では“엄마랑 ㄹㄹ【オンマラン ポッポ】[ママとちゅ]”が見開きのページごとに規則的に繰り返され、“○○우리 아가 [○○私の赤ちゃん (○○には可愛い、腕白な、賢いなどが入る)]”と“엄마랑 ㄹㄹ”が一行ずつにまとめられ見開きの右か左の片面だけ上下二行にテキストが並んで配置されている。それに対し日本語訳は、原作の“엄마랑【オンマラン】[ママと]”がそぎ落とされ、“ㄹㄹ【ポッポ】[ちゅ]”に該当する箇所も“ちゅっちゅっ”や“ちゅーっ”“ちゅちゅちゅ”“ぶちゅ”と多様な表現音形になっている。また“○○あかちゃん”も一行だったり二行に分けられたりと規則性がなく、“ㄹㄹ【ポッポ】[ちゅ]”に当たる箇所も見開きページの至る場所に散在している。絵本は絵とテキストで構成されており、多くの翻訳絵本が原作と同一の場所にテキストを置く編集方法を取るが、『あかちゃんちゅ』は原作に大きく手を入れた編集をしている。

なお、今回の調査は表1で示したように、その対象選定に限界があったため追加調査が必要である。オノマトペや言葉遊びの出現頻度が日本語原作絵本に比べ低かったことが韓国原作絵本全般にわたる傾向であるのか、今回の調査の資料がたまたまそうだったのかについてさらなる調査を要する。

そして、今回の調査ではD)教育への配慮も見られなかった。バイカーは発達段階に配慮した翻訳が求められるとしているが、前述のように今回の調査作品はストーリー性を重視した作品が多く、自ずと年長向けの内容になるため発達段階への配慮は見られなかった。このことについても、調査対象の限界が招いた結果と考えられるが追加調査の方法はなく、これからさらに多種多様な韓国絵本の翻訳を待つしかない。

#### 5・4 出版事情の変化

表1で示した韓国原作絵本の日本語版出版において、原作作品選びに一定の傾向が見られたためそのことについても述べておきたい。

前述の通り韓国絵本が日本に紹介され始めた頃は韓国の文化や風習を題材にした絵本が多かったとされているが<sup>注12)</sup>、今回の調査対象からは『いたずら五にんぐみ オチョグニ』のみがそれに当てはまる。異文化色をおびる物よりストーリー展開の面白い作品が選ばれやすくなっているように思われる。

また今回の調査対象は絵本関連賞の受賞作が多い。『いろのかけらのしま』は2017年に日本語訳初版が出版されたが2015年度のBIB受賞作である。2016年に日本語訳初版が出版された『天女銭湯』は2012年度の韓国出版文化賞受賞作であり、2014年に日本語訳初版が出た『クリムのしろいキャンバス』は2011年に出版されポローニャ国際絵本原画展で受賞している。権威のある賞を受賞したことで質が保証された絵本が出版されるようになったと言えよう。

2016年に出版された『とうきび』は2011年から始まった企画「日・韓・中 平和絵本」の中の一作として出版された。出版社の意向による企画物で原作の制作から始まる例である。

以上のことから、近年の日本絵本市場で韓国原作絵本に求められる要素は、異文化色よりはストーリー・展開の面白さ、権威ある賞の受賞で保証される高い表現力の2点であるとまとめることができる。絵本として優れている作品が好まれるようになったとも言える。近年ますます加速するグローバル化により異国・異色の境界線はぼやけてきている。異文化色だけでは子どもや保護者に魅力ある絵本として映らなくなった時代がもたらせた変化であろう。

このことについては韓国絵本における題材の選び方についても調査する必要があるが、今度の課題として残したい。

## 6 結び

本稿では日韓両言語間の絵本翻訳の基礎研究として、韓国語原作絵本の日本語版から用例を集め分析を行った。今回の分析結果から次のようなことが分かった。

- ①翻訳は自然な日本語になっており、概ね原作の内容を不十分なく伝えていた。
- ②紙面上の都合による字数制限に強く縛られていた。
- ③固有名詞の変更が日本語原作絵本の韓国語訳版に比べて多く行われていた。
- ④翻訳版の原作選びにおいて、以前は異文化を紹介する内容の作品が選ばれやすかったが、近年は絵本関連賞の受賞作が多く、高いストーリー性と豊かな表現力が好まれる傾向にある。

バイカーが挙げた絵本翻訳の4つの留意点より両言語の特徴による工夫が目立つ結果となった。①は日韓の言語や文化の類似点から予測できた結果であった。②と③は紙面上の空間と文字数の兼ね合いから必要とされる翻訳工夫で、両言語間の音と表記法の差異に起因しており、他ジャンル翻訳では見られない傾向である。④からは韓国絵本に求められる役割の変化が窺えた。日本の絵本市場ではまだマイナーな位置にある韓国絵本は、以前は異文化紹介や思想の面白さでその魅力を発揮したが、近年は韓国のみならず他国でも受け入れられる高いストーリー性と様々な表現法による良質の絵本が日本で出版される傾向にあることが分かった。

最後に、今回の調査結果にはさらなる調査が必要である。韓国絵本のオノマトペや言葉遊び出現頻度に関する調査と韓国絵本における題材選びの変遷に関する調査がそれである。さらに日本語原作絵本の韓国語版と韓国語原作絵本の日本語版の量的差異の原因についても明らかにする必要がある。

#### 参考文献

- (1) 『子どもと読書』（親子読書地域文庫全国連絡会 発行）による調査結果。2014年から2018年までの5年間のデータを基にした。（単位／冊）

年度	日本語原作	外国語原作	年度合計	出典
2014	555 (78%)	161 (22%)	716	『子どもと読書』2015年3・4月号(410号)
2015	600 (83%)	123 (17%)	723	『子どもと読書』2016年3・4月号(416号)
2016	557 (77%)	162 (23%)	719	『子どもと読書』2017年3・4月号(422号)
2017	786 (87%)	113 (13%)	899	『子どもと読書』2018年3・4月号(428号)
2018	606 (78%)	168 (22%)	774	『子どもと読書』2019年3・4月号(434号)
平均	620.8 (81%)	145.4 (19%)	766.2	

- (2) 「出版&映像翻訳 完全ガイドブック」（渡邊絵里子編），イカロス出版，東京，p.35，2016.  
 (3) 「通訳・翻訳キャリアガイド2010」（伊藤秀樹編），ジャパンタイムズ，東京，pp.20-23，2009.  
 (4) 金銀英：日本語絵本における韓国語翻訳の傾向，下関短期大学紀要，37巻，pp.1-17，(2019).  
 (5) ジュンク堂：<https://honto.jp/netstore/>  
 紀伊国屋：<https://www.kinokuniya.co.jp/>  
 絵本ナビ：<https://www.ehonnabi.net/>  
 (6) 金銀英：前掲注(4)，p.16.  
 (7) 朴鍾振：韓国の子どもの本と読書事情，子どもと読書，376号，pp.2-6，(2009).  
 (8) 小川悦子：つくり手たちの情熱，子どもと読書，376号，pp.6-8，(2009).  
 (9) 石井隆之介：韓国絵本に魅せられて，子どもと読書，376号，pp.8-9，(2009).  
 (10) モナ・バイカー、ガブリエラ・サルダーニャ編：「翻訳研究のキーワード」，研究社，東京，pp.32-38，2013.  
 (11) 古市久子、西崎有多子：絵本の翻訳に何が影響しているか：日英の絵本を通して，東邦学誌，38巻1号，pp.27-52，(2009).

この研究は日英の絵本を対象とし、絵本の翻訳に影響する要因に焦点を当てた研究である。具体的には翻訳者の個人的な感性、作風ではなく、普遍的に翻訳に影響を与える要因を「読み取り分析」で探ろうとしたものである。

- (12) 小川悦子：前掲注(8)